

早稲田大学 大学院教育学研究科 出題意図および解答例

年 度	2027年度
試 験 日	2026年9月19日
研 究 科	教育学研究科
課 程	修士課程
専攻・コース等	英語教育専攻
入 試 制 度	一般・外国学生
試 験 科 目	専門科目
出題意図及び解答例（解答のポイント）	
【注意事項】 ※公開する解答例には、別解がある場合があります。 ※お問い合わせいただいた内容は本学で確認し、必要がある場合には、入学センターWebサイトに掲載いたします。個別に回答することはいたしません。 ※お問い合わせ先：早稲田大学入学センター nyusi@list.waseda.jp	
■出題意図 英語科教育、英語学、イギリス文学、アメリカ文学のうち、志望する研究指導領域に関して、基礎的な知識および論理的に思考し、説明できる力を評価・判定する。	
■解答例（解答のポイント） 【設問A-1】 1. 3 2. 2 3. 3 4. 1 5. 3 【設問A-2】 ・記述問題につき解答例は示せない。 解答のポイント/評価のポイント ・文学に関連する英語の記事を正確に要約できているか、さらに、記事の議論をふまえ、自身の見解を論理的に英語のパラグラフ・ライティング形式で表現できているかを評価した。 【問題Ⅰ】～【問題XⅤ】 ・特定の解答に誘導すると知識・思考力等を測ることが困難になるため、解答例は公開しない。 解答のポイント/評価のポイント 【問題Ⅰ】 [1] 英語教育で近年注目されている各論点について、それぞれの用語が示す概念や内容を明確に対比しながら説明し、授業場面や学習者の具体的な行動を踏まえて例示すること。 [2] 英語教育で近年注目されている各論点について、具体的な学習場面や事例を用いて説明し、学習の効率性と学習者への配慮の両面から多面的に考察すること。	

【問題Ⅱ】

1. 言語テストに関する基礎的概念について、選択した項目の定義や内容を適切かつ具体的に説明できているかどうかを評価した。
2. 言語テスト実践における身近な課題と言語テストに関する概念との関係性を正しく理解し、その概念を用いて言語テストの質の検討について論理的に説明することができているかどうかを評価した。

【問題Ⅲ】

1. 自律性支援と構造化の相乗効果を日本の文脈や実証研究に即して考察できているかを評価した。また、その理論的知見を教員養成や授業環境の設計に具体的に応用できているかを見た。
2. 早期英語教育におけるデジタルツール活用の利点と課題を、最新の研究を踏まえて分析できているかを評価した。その上で、学校の指導カリキュラムを補完する具体的枠組みを提示できているかを見た。
3. L1とL2の動機づけや能力信念の共通性を理論的に捉え、外国語学習を再考できているかを評価した。さらに、フィードバックや自己調整学習の設計へ論理的に展開できているかを見た。

【問題Ⅳ】

- ・ L2ライティング研究の主要概念を正確に理解し、具体例を用いて英語で簡潔に説明できているかを評価した。また、トランスランゲージングに関する先行研究上の課題を踏まえ、目的・方法・予想される結果・教育的示唆を備えた研究を構想し、その学術的貢献を論理的に示せているかを評価した。

【問題Ⅴ】

1. 二つの違う要因を関連づけて、明確な研究目的を導き出しているかを評価した。また、研究目的に合った研究方法が提示できているかを評価した。
2. engagement と motivation の違いを説明できているか、またそれに基づいて議論が展開されているかを評価した。

【問題Ⅵ】

- ・ 当該研究指導を希望するにあたり知っておくべき用語・概念を特に4点選定した。定義を知っているかどうかだけでなく、自らの文脈に当てはめて思考する力を評価した。

【問題Ⅶ】

- ・ 生成文法に関する理解力と批判的思考力および理論構築の能力を評価する。また論理展開に関連する言語データを適切に引用することが出来るか否かもポイントとする。

【問題Ⅷ】

- ・ 日本語表現の二つの解釈について、統語構造の違いを分析し、それぞれの意味を説明する力を問う。さらに、世代による解釈の違いについて、言語使用や社会的背景の観点から考察することがポイントである。

【問題Ⅸ】

- ・ 研究計画に一定水準以上の新規性があるか、それが標準修業年限内に実行可能と判断できるレベルの具体性をもって説明されているかを評価した。

【問題Ⅹ】

- ・ 文学用語・批評理論・文学史など、イギリス文学の研究に必要な基礎知識を正しく説明できるか、またそれらの知識を用いて文学的現象を叙述できるかを評価した。

【問題XI】

1. イギリス文学に関連した項目について、それらの語句が意味する概念や内容等を正しく理解し、選択した項目に関して適切に解説できているかどうかを評価した。
2. 知識の正確さ、論理的記述力、根拠に基づいて自身の見解を展開する能力を評価した。

【問題XII】

1. 18世紀前半の理性・秩序を重視する文学から、後半の感情・想像力・自然などを重視する傾向の変化を理解し、具体的な作家・作品を挙げてロマン主義への移行を説明できていることを確認した。
2. 具体的なヴィクトリア朝作家・作品を通して、読者層の拡大や出版文化の発展、産業化・都市化などの社会背景と小説の隆盛を関連づけて論じられているかを評価した。

【問題XIII】

- ・王政復古期演劇における選択したテーマに関する知識を正しく理解できているか、またその知識を用いて当該テーマの特徴・歴史的背景・意義を具体的な事例や作品への言及を伴いながら英語で適切に論じられているかを評価した。

【問題XIV】

- ・アメリカ文学や文化をめぐる作品についての知識があるか、さらに、作品の意義を美学的要素（スタイル、文体、ジャンルなど）および社会的背景と関連づけながら分析できているかを評価した。

【問題XV】

1. アメリカ建国から20世紀初頭にかけての文学史上の重要な概念や作品について、基本的な知識とその文学史的意義を理解していることを確認する。
2. 「古典」文学の成立や選定そのものを批判的に捉え、アメリカ文学史を主体的・多角的に考察する力を評価する。

以 上